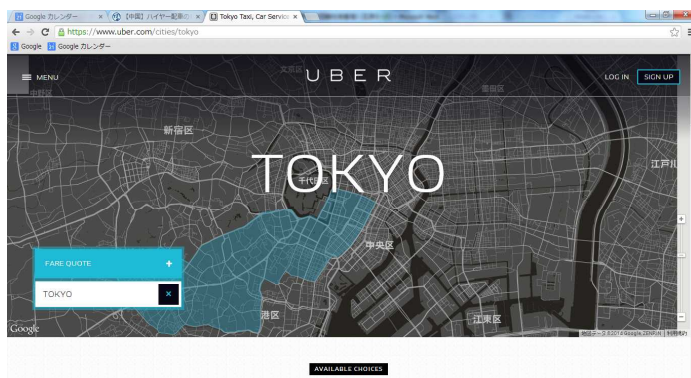


ハイヤー配車の Uber、北京へ参入！その影響は

北京事務所

2014 年 3 月東京で本格的にサービスを開始したハイヤー配車の Uber が、この 7 月、北京でもサービスを開始すると発表しました。

Uber はスマートフォンアプリを利用したオンデマンド配車サービス。アプリにクレジットカード番号を登録し、指定の場所への配車を依頼し、指定場所で乗車後行き先を指定すればキャッシュレスでの移動が可能となります。この便利さ、ハイヤー車両の高級感が受け、2010 年にサンフランシスコで始まったサービスは、今や世界 72 都市で展開するほどとなりました。ただ、新サービスは時に摩擦を引き起こすことがあります。1 月にはフランス・パリで Uber 車両への襲撃事件がありました。スマートフォンや PC で予約が可能な Uber に仕事を奪われることへのタクシー運転手による抗議行動だったようです。



UberTokyo のホームページ(<https://www.uber.com/cities/tokyo>)

北京ではすでにタクシー配車アプリが普及



didi 打车アプリの画面

小費という欄でチップ額を上下できる

北京のタクシーは、日本と同じくメーターによる時間距離併用制です。公共交通機関が東京ほど発達していない北京では、タクシーの需要は大きく、特に朝夕のラッシュ時にタクシーを捕まえるのは至難の業！！捕まえたければ、道端で 100 元札（中国で一般的に使われる最高額紙幣）を振ればいよいよと、少し前までは本気で言われるような状況でした。

しかし、そんな北京のタクシー事情も、2013 年頃から普及し始めたタクシー配車アプリの影響で少し変わってきました。使い方は Uber とほとんど同じで、スマートフォンアプリを使い、場所を指定、車両がやってきて乗車するというものです。Uber と異なる点としては、目的地を最初から伝えている点、ちゃんと迎えに来てもらえる

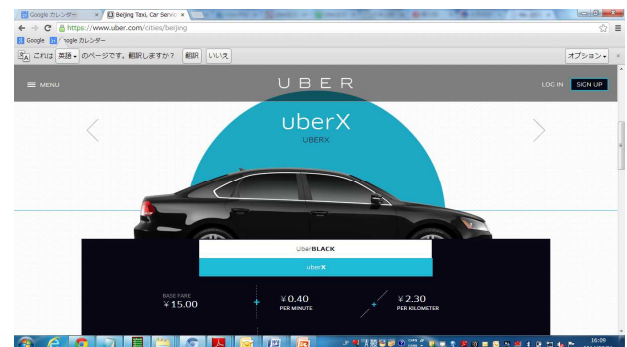
ようにチップを加算する点です。これら Uber と異なる点は、何とも中国らしさを感じさせてくれます。

このタクシー配車アプリは当初 100 種類を超えていましたが、現在は主にアリババ系の「快的打車」とテンセント系の「didi 打車」の 2 つに集約されています。また、この 2 社に集約されてきたこと、アプリ利用が進んだことには理由があります。「快的打車」「didi 打車」の 2 社ともに、タクシー運転手、利用者に対してキックバックを行っているのです。利用者はアプリを使って乗車すれば、通常の料金から割引された金額で乗車することができます。タクシー運転手もアプリ経由での予約乗車の場合、1 乗車ごとにキックバックがあります。この結果か、以前は大通りでよく見られた、タクシーを捕まえようと競う人々の姿が消えつつあります。

Uber、その影響は

北京においては Uber 同様の配車サービスはすでに行われており、パリのようなタクシー運転手による抗議というほどの影響はなさそうです。すでに行われているという意味で参入余地があるのか考えさせられますが、Uber はフォルクスワーゲン「パサート」やアウディ「A6L」、BMW「5 シリーズ」を使用することで、他の配車サービスと異なるハイヤー配車サービスとして差別化しています。

また、個人的な意見になるかもしれませんが、外国人にとって大変ありがたいサービスになるのではないかと期待しています。上記で紹介したアプリは当然すべて中国語です。また、利用者がアプリ会社による割引をうけるには、「支付宝」「微信支付」といった中国の決済サービスを利用せねばならず、現金で支払う場合には割引を受けることができません。さらに、アプリ使用にあたっての



Uber Beijing のホームページ（使用言語は英語）

最大の難関として、目的地やチップ額について運転手と電話交渉する必要が生じる場合があります。中国国内でも、アプリ普及により、スマートフォンを使用しない市民がタクシーを捕まえにくくなったという話もあります。中国語、さらには中国 IT リテラシーに明るくない外国人にとっては、どんどん便利になるサービスも逆効果となることがあります。しかし、今回の Uber は、全世界で同内容のサービスを展開しており、このサービスに馴染んだ外国人にとっては大きな味方になるのではないのでしょうか。

（田村所長補佐 鳥取県派遣）